

エルサルバドル NEWS

みつばち保育所 新しい園舎で新学期スタート



2018年9月10日(月)、みつばち保育所の新学期がスタートしました。子どもたちは毎日のように保育所に通い、大学生のボランティアに宿題を教してもらっています。

FUNDIPRO (フンディプロ) 協会は、サンタテクラ市マルガリータ地区の子どもたちの教育支援をこの地で20年以上行っています。

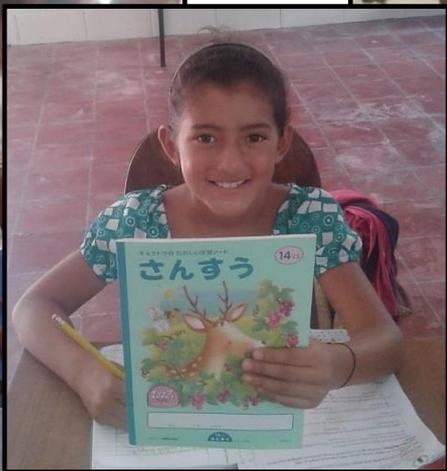
みつばち保育所はFUNDIPRO協会が中心になり、各国のカウンターパートの協力によって運営されている寺子屋のような施設です。

新学期からみつばち保育所は、ある修道女会の協力によって新しい園舎(サンタテクラ市ケサルテペル区にあるセンターの一角)に引っ越しました。ここではより多くの子どもたちを迎えることができ、またさまざまな活動に活かせる可能性が増えました。当協会ではISI協会(見捨てられた児童の会)と協力して今後も事業をすすめていきます。

FUNDIPRO 協会会長 アンドレア・ロマーニ
(翻訳・文責: オリーブジャパン 吉見ひかる)

(編集部注) 屋根と柱と低い壁の建物から、屋根と壁と窓とドアがある、子どもたちが安全に学べる園舎になりました。





2018年
9月10日
新学期



日本から送られた教材で新学期がスタートしました。この教材は名古屋のNGOセンターと太田商店からの寄贈品です。ご協力ありがとうございました。



エルサルバドル滞在後記

2017年12月から8か月間、エルサルバドルのみつばち保育所でFUNDIPROの活動に参加しました。最初は1つでも協力できることがあればと思っていましたが、実際に現地で生活してみると、FUNDIPROの仲間にも助けられることばかりでした。また子どもたちには、私が教えることよりも教えられることの多い毎日でした。

みつばち保育所は、お昼すぎから始まります。最初は子どもたちの宿題や勉強を見る時間があります。勉強が終わった子どもから遊びが始まりますが、私はよく折り紙を教えたり、絵を描いてあげました。子どもたちの遊びにはブームがあり、ある時は縄跳びやダンスを一緒にしました。子どもたちは皆素朴で可愛いく、いつも名前を呼んで慕ってくれました。特にジャスティン君とミサエル君は家に迎えに行くと、私の手を握って離しませんでした。子どもたちは私が日本に帰るとき、手作りの感謝状を贈ってくれました。これはエルサルバドルの経験と共に、私の宝物の1つです。

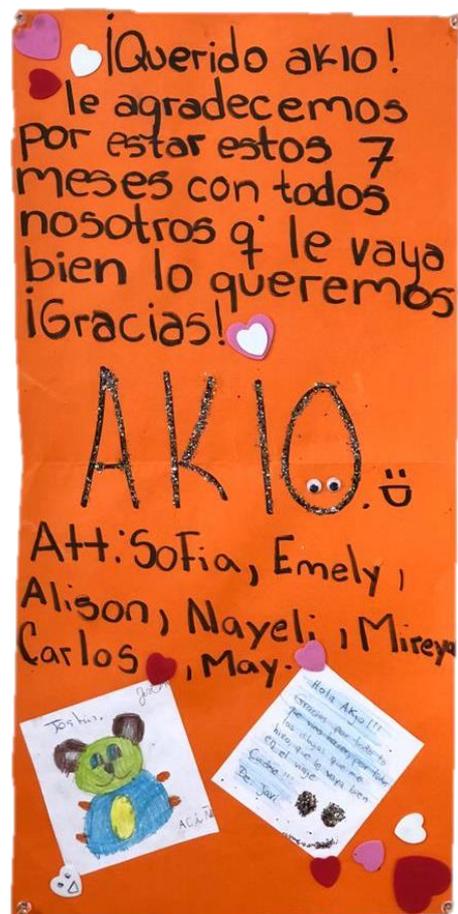
仲間と子どもたちに支えられた8か月でした。I.S.I、FUNDIPRO、みつばち保育所の子どもたち、そして日本から保育所を支えてくれたオリーブジャパンの協力者の皆さま方に感謝します。

オリーブジャパンスタッフ 柴田暁央

大好きなアキオへ

この7か月わたしたちと一緒にいてくれて感謝してるよ。元気でがんばってね。大好きだからね。ありがとう、アキオ！

ソフィア、エメリー、アリソン、ナジェリ、ミレジャ、カルロス、メイより



子どもたちからの感謝状

現地の NGO づくりー将来と展望 その5

ジョヴァンニ・リヴァ

(現地のパートナーと共に仕事をするときには中心にしなければいけないことがある。その国を担う若者、知恵のあるお年寄り、エネルギーを持った女性たちに活動と呼びかけ、具体的な仕事をするることにより、彼らが自発的に計画を実行するように育成する必要がある。) 前号より

もう一つの大切なポイントは「人間性」と「信頼」です。パートナーに出会うと直ぐに格好の良い話がしたいものです。自分を幻滅させてしまうことや間違いを言いたくないのです。そして相手も格好の良いことばかり言って嘘と嘘のつき合いになってしまいます。そのようなことを恐れなくて、自分のことを正直に相手に見せて相手も同じ態度で向き合い、本来の姿から始めることが大切です。人間としての深みをお互いに築くことです。私と相手の間の一致を目指しながら、共に真面目で嘘なく働くことのできる環境を作ります。このような一致は、すべての人間との一致の象徴のようなものにならなければなりません。例えば資金はすべて断られ、借金も山ほどあり、ボランティアたちはその状況に幻滅して去ってしまっていて最低な状況の中においても、何度も頑張ろうとスタートを試みるという人間性を深めていくことです。すべてを失ってしまったとしてもその人間性の深さ、人間関係の太さが残るなら大丈夫です。大切なのは、パートナーも私たちも学ぶ心を持たなくてはならないということです。自分と相手の限界を赦して同時にお互いの可能性を活かすことです。相手の文化を愛すること、つまりその文化を愛するための精神を養うことが大切です。勿論、この過程は非常に長い道程です。しかし、長いということは少しずつ行われるということです。責任も少しずつ任せていき、例えば突然34万円渡して使ってください、ということでは大変なことになってしまいます。自分たちで勝手に使ってしまうように「今年は50万円を与えます」と、渡してから「こういう目的のために使ってください」と指導します。その次は100万円を渡して、前の50万円はどのように使われたのか報告を聞きながら次の打ち合わせをしていきます。パートナーは、少しずつ任されたことを自分の役目として考えていかなければならないのです。私たちは彼らが自立し、これは私がやりたいことであるという考えに至るまで意識を運んでいくのです。ですから、私たちの仕事は資金を集めて現地に行って何かを建てて帰ってくることはありません。それはまだ簡単なことです。私たちは「技術中心主義」ではなく、人間が人間として扱われる人間関係を求めます。これは教育的な過程です。この過程は非常に長い道のりです。その過程は優越感、或いは自分の民族を中心にして、人を上から下へ見下すこと、そのような差別的な過程ではないのです。本当に平等な立場でパートナーと共にいることが大切です。同時に教育的な過程の中で大切なことは、彼らたちのやる気を育てることです。私たちだけではなく、彼らたちにも汗を流しながら頑張ってもらいからこそ、共に喜びを分かち合うことができます。このような理念を持つと、3年間の間に実現させたかったプロジェクトは実際には10年の年月がかかるでしょう。しかし、それでもよいと思います。そのパートナーとの間に良い関係が生まれて、彼らが自立するようになり、私との友情を大切に自分も国のために働くことを希望するようになるからです。そうしないなら、私たちはお金を持っている人「ロス・グリンゴス・コン・ラ・プラタ(お金を持って来たアメリカ人)」がやって来た、もしくはサンタクロースのような存在として扱われてしまいます。そうならないように一緒に汗を流し、教育しながら活躍しなければならないのです。そうすることによって、彼らはただ待つだけで誰かが私を助けてくれるという浮浪者のメンタリティーから解放されます。つまり、私は自分の人生の主人公になるということ、政府または権力を持っている人々からすべて与えて貰うように願わず、自分で頑張るということです。これをパートナーたちに教えなくてはならないのです。また、女性の立場を考えてください。昔から女性のために考えられているNGOや政府関係のプロジェクトでは、必ず洋裁か美容師、秘書になるための講座が考えられています。しかし、まさかそのようなことしかできないわけではないと思います。とにかく、彼女らにマネージャーの責任を任せてください！そうすれば自立心を育て、責任を持って頑張ると思います。先に政府から資金を受けるとリスクが高いと言いましたが、理由はこれまでの話で分かっていたかと思います。政府から資金を受けると結果にこだわってしまいます。結果を見せなくてはなりません。何年間の間に何をしたか、いくら使ったかというようなことをです。従って、人を責めることになってしまいます。「こうしなさい、早くしなさい」と言って教育的な過程を踏めなくなってしまうのです。勿論、私たちと共に働いた人々が今後も法的に守られるようなシステムを考えなくてはなりません。彼らたちのグループがきちんとした活動を続けられるようにその国の法律を説明したり、弁護士を頼みます。そしてプロジェクトを実行するために話し合い、契約等を結んでいきます。そのようにして地域のNGOが生まれるのです。

(1994年11月26日講演) 次号に続く

チャリティーショップ開催 10/20(土)・21(日) CAZAN 珈琲本店横 (旧タツミ)



エルサルバドルの子どもたちのための

OLIVE JAPAN

チャリティーショップ

10.20 (土) 11:00-17:00
10.21 (日) 10:00-15:00

カザン珈琲本店横 (旧タツミ)
(名古屋市昭和区台町 2-19)
地下鉄鶴舞線桜通線 御器所駅
4 番出口より徒歩 4 分



オリーブジャパン国際開発協力協会
〒465-0025 名古屋市名東区上社 2-94 北ハイツ 104
TEL: 080-4306-1057 (鈴木) HP: <http://olivejapan.sakura.ne.jp/>

物品募集中

中米の貧しい子どもと若者のための
チャリティーショップを
定期的で開催しています。
ご家庭にある、日用品、衣類、靴、ア
クセサリー、バッグ、雑貨などのご提
供をよろしくお願ひいたします。

皆さまのご協力を
お待ちしております。

連絡先
080-4306-1057(鈴木)



2018年バザー開催予定

11.24(土)25(日)

本山生協会館

12.16(土)~23(日)

クリスマスチャリティーバザー

CAZAN 珈琲本店横

講座・チャリティーショップの収益金はすべて、カウンターパートの中心であるイタリアの I.S.I(見捨てられた児童の会)を通して、中米の貧困に苦しむ子どもと若者の教育支援事業に充てられます。

会員募集

オリーブジャパンの活動に賛同していただける
会員の方を随時募集しています。

- ・賛助会員 (一ヶ月一口 10,000 円)
- ・正会員 (一ヶ月一口 5,000 円)
- ・協力会員 (一ヶ月一口 2,000 円)
- ・参加会員 (一ヶ月一口 1,000 円)
- ・同調会員 (一ヶ月一口 500 円)

郵便振込用紙に必要事項と会員の種類、
納入方法 (月払い/年一括) をご記入の上、
会費を納入ください。

振替口座番号

00890-1-24582

会員の皆様には、会報「オリーブプレス」と
講演会、バザー等のご案内を優先的にさせていただきます。

オリーブプレス Vol.26 2018年10月発行

オリーブジャパン国際開発協力協会 olivejapan80@hotmail.com <http://olivejapan.sakura.ne.jp/>

編責 : オリーブプレス編集部